

『INCHの楽しい仲間たち』 vol.8 その5

クリスマスとホグマニー (3)

佐伯 順弘 (岐阜県)

DAY8 (30DEC2012) エジンバラ滞在
0700 起床。エジンバラホグマニーの影響で1つの場所でエジンバラ滞在ができず、ユースホテルからゲストハウスに移動。朝食後、チェックアウトするも次は夕方にチェックインするため、ユースホテル玄関わきのロッカーに荷物を預けて、身軽になり街に出る。

0930 カールトン・ヒルというちょっとした丘にある公園に向かう。ここからエジンバラを一望できる。塔になっているネルソンモニュメントやパルテノン神殿のようなナショナルモニュメントなどの遺跡らしい建造物がある。晴天なら、のんびりとした場所だが、今は年末。曇りである。したがって、かなり寒いのである。しかし、探検家気取りの旅人はそれを無視して探索を続行することにした。



このカールトン・ヒルまでは、ちょっとした山登りという感じでわずかに体も温まっていた。建造物を見物したり、一望できる街並みを楽しんだりして良い時間を過ごす。ガイドブックを手掛かりに偶然この場所に来たのだが、実はこの後、も

う一度この場所に来ることになる。

1030 しばらく散策した後、市街地に戻る。国立スコットランド美術館。絵画のなんとか派とか、誰の作品とかはほとんど知らないけれど、絵画には幼少期から興味があり、どの国に行っても美術館にはよく行く。もちろん、水族館も博物館も科学館も行くけれど……。この National Gallery of Scotland には見たことのある絵画や名前を知っている画家の作品が多くあり、とても楽しめた。多くの人々が鑑賞に来ており、休憩用の椅子も満杯だった。このようなヨーロッパの美術館、博物館は無料のところが多くない。あの大英博物館も無料である。なんと素敵な環境であることか。本当にうらやましい。



1230 近くのパブに入って、エールでも飲もうと思ったら、1300 からでないアルコールは販売できないとのこと。仕方なく、コーラとサーモンのムニエルで空腹を満たす。

1300 やっぱりビールが飲みたくなり、牡蠣も食べたくなって Mussel Inn Seafood Restaurant に向かう。入店するとすぐに牡蠣はすでにないと言われた。ランチに牡蠣を食べる人がそんなにいるのか？と驚いたが、ムール貝ならあるということで、ビールと共に楽しむ。ムール貝もおいしいものだとは再認識した。また、この国ではどのメニューにもチップスがついてくる。これがまたおいしいのだが、量が多いので若干食べ

過ぎた。牡蠣を食べることができなかったけれど、エジンバラにはまた来るから、その時に食べることにして店を後にする。



食べ過ぎの腹を抱えて、街を徘徊する。すると、人だかりと長い行列が突然現れた。当然、何かを突き止めなければならない。



現場に近づくと、人々が買い求めていたのは「松明（たいまつ）」であった。近くの人に聞くと、夕方に松明行列があるとのこと。これは是非とも参加せねばと松明購入行列に並ぼうとしたが、その列がとんでもなく長い。なぜ人々はこれほどまでに松明に熱狂するのか。その謎を突き止めたいとの衝動に駆られたが、あまりの列の長さにあっさり気持ちが折れてあきらめた。若干の失意の中、その場を離れようとする意味不明の看板が・・・。



なぜ、ガンダム？ Mulled Cider？ モルドワインはホットワインのことだが、ホットサイダー？

うまいのかそんなもん。しかもガンダムがナイフとフォーク持ってるし・・・。新たな研究課題が生まれたが、これは追究する方法を考えることも面倒くさくなり、放棄した。

雨が降り始めたので、急いで荷物を取りに行き、本日の宿泊施設に向かった。



1530 Guest House GLENORA に到着。部屋は広くないが、機能的にまとめられ、バスルームもきれいだ。予想以上に快適で気に入った。松明行列参加は1800過ぎに行くとして、部屋の探索（盗聴器が仕掛けられていないか、隠しカメラがないか、爆発物はないかなど、作戦行動上の基本。）と旅の記録、そして、少し寝る。



1820 防寒装備を整えて、散歩に出かける。通りを曲がると・・・。なんだこれは！なんの暴動だ！と思われるくらいの松明！松明！松明！人々は松明を手の流れを作っている。暴動にしてはあまりにも楽しそう。これがエジンバラホグマニーか。松明を持っていなくても歩いている人がいる。なんだ、大丈夫かとお気楽な東洋の旅人は松明行列に加わる。



隣で松明を持っていたスコットランド人と思われる人が話しかけてきた。松明もって写真撮らない？と言ってくれた。お言葉に甘えて、観光写真を撮らせていただく。なんか、みんな盛り上がっている。歓声を上げたり、歌ったり、大声で話したりしている。いったいどこに向かっているのかわからないまま、流れについていく。みんな歩いているんだから、歩いて戻ってこれるだろう。もし、戻ってこれなくて徹宵することになっても大丈夫なくらいの体力はある。出たところ勝負である。酒も飲んでいないのに、まるで酔っているかのような状態だった。さて、人の流れはなんとなく知っている場所を進んでいることに気づく。(カールトン・ヒルに向かっている!) 不安が消える。丘を登ると人々は燃え尽きた松明を所定の場所に始末し、丘いっぱい群れていた。丘にある多くの建造物はライトアップされ、幻想的な美しさだった。しばらくすると「エンジンバラホグマニーが始まるよ!」というような放送が流れ、たくさんの花火が打ち上げられた。日本の花火よりもやや低いところで炸裂する花火は美しく輝き、人々の歓声が沸き起こった。素晴らしい FireWorks だった。



花火が終わり、その余韻を味わっていると、みんな寒かったのだろうか、「あれっ?」と思うくら

い切り替えて、あっさりと帰り始めた。

みなさん、あっさり帰っていくのだが、こっちは気分が盛り上がり、このまま帰れない。



帰り道に見つけたパブに入る。落ち着いた照明で店の外から想像できないくらい広い。そして、ずらりと並ぶビールサーバーのレバーにさらに気分が盛り上がる。こういった場合の決断に関わる瞬発力は誰にも負けない。約0.5秒でオーダー。Santa's sprit サンタクローズ? 飲み終わる直前に次の1杯を決める。Flying scotsman 空飛ぶスコットランド人? どちらも味わい深いビール。1 PINT×2杯 約1140ml

2杯飲んで、店を出る。ほろ酔いでゲストハウスへの道を歩いているとまた、いい感じのパブを発見。迷うことなく、入ってみる。ここでもビールサーバーずらりとならぶ。しかし、旅先で酩酊するわけにもいかない。下手をすれば、凍死である。3秒近く迷った拳句一番近くにあった Deuchars IPA を1 PINT 飲む。その後、無事ゲストハウスに帰投。2200



なんでもここは、「蛍の光」を作詞したスコットランドの国民的詩人ロバート・バーンズが通ったパブだとか。スコットランド名物ハギスとビールで昼食。旨し。心身ともに満足。



DAY9 (31DEC2012) エジンバラ滞在
0800 起床。朝食はエッグベネディクト。



料理としては知っていたが、食べたのは初めてである。イングリッシュマフィン、ポーチドエッグ、チーズのソース（調べる必要あり）が基本構成である。味は想像以上に濃厚かつ複雑でとても気に入った。その後、部屋が快適すぎて昼近くまでのんびり過ごしてしまった。これじゃ日本の休日と変わらない。ていうか、気分はもうエジンバラの住人なので別にどうということもない。ともかく、昼食も食べたかったので散歩に出る。旅に出ると勘が冴える。よさげな PUB The White hart Inn を見つける。

散歩を続行すると噂に聞いていたカフェ登場。the elephant house。J.K ローリングがメガネ少年の話を書いたカフェだ。写真を撮る東洋人が数多くいたので、間違いのないと思われる。（自分も含まれるのはやや残念である。）ここでカフェに入るのには恥ずかしいので通過。その流れで探索続行。Scottish National Portrait Gallery へ。写真かと思ったら絵画、肖像画だった。よい作品が多く面白かった。その後、地図を見ていたら、スコットランドの海が見たくなり、海まで歩いた。約1時間歩いた。理由はない。薄暗くなっても歩いた。かなり暗くなっても忍者なので夜目が効くのだ。薄暗い海。岩場に波が砕けていた。いかにも北国の海という感じ。日本海よりなんとなく厳しい感じがした。帰りはバスで市街地に戻る。1700 着。一度ゲストハウスに戻って休養後、再度出撃。これからエジンバラホグマニーのメインイベント「ストリートパーティ」が始まる。

(つづく)